

Philippe Dufour



究極の時計を求めて Philippe Dufour

シェルマン
TEL03-5568-1234
www.shellman.co.jp

最も重要な独立時計師の一人として、フィリップ・デュフォー氏の名前を挙げることに異を唱える人はいないだろう。時計産業の中心地、スイス・ジュネーブ谷のル・サンティエに生まれ、ジャガー・ロルトを皮切りに、カリブの島にあったファクトリーにも在籍するなど興味深いキャリアを経験。1978年に自身の工房を設立し、86年にグラン・プティ・ソヌリ機構の懐中時計、92年には同機能の腕時計を世界で初めて完成させ、ダブル・テンプ機構の「デュアリティ」などでも高い評価を得ていく。97年からはアカデミー会員にも名を連ねる。

日本の時計愛好家の間で、その名が知られるようになったのは、「シンプリシティ」の存在が大きい。50～60年代のよきスイス時計を範とし、先進的マシンに頼らず、歯車までも手作業で自作した究極のシンブルウォッチで、クラフツマンシップに裏付けられた審美性に加え、100年後も動き続ける耐摩耗性や耐久性、またメンテナンスの簡便さも考慮するスタンズも支持を集めた。現在は、自身の時計製作はごく限定的にしか行っていないと伝えられているが、グーベル・フォルセイとともに、伝統技法の継承プロジェクトにも取り組むなど、後進の育成にも積極的だ。

(上) 究極のシンブルウォッチ。200本の限定受注で、生産完了まで1年開取本ずつ段階を経てデリバリーされた。当時の販売価格は、仕様の違いにより400万円代後半から500万円代後半だったが、現在オークションで2000万円を超える高札価格がつく。「シンプリシティ」手巻き、ケース径34mm、PGケース・メアリアゲーターストラップ、発売。

Daniel Roth



家族が支える境地

Jean Daniel Nicolas

シェルマン
TEL03-5568-1234
www.shellman.jp

ブレグの再来——ダニエル・ロート氏がしばしばそう呼ばれるには理由がある。幼少期を過ごした南仏ニースの時計学校を卒業後、スイス・ジュネーブに移り、ジャガー・ルクト、オーデマ・ピグなどで伝統的な手仕事を徹底的に仕込まれる。その後、当時ショーメが進めていたブレグ復興プロジェクトに参加。文献や図面の研究に没頭し、パワーリザーブ表示とムーンフェイズを搭載したアイコン的モデルや、永久カレンダーなどのコンプリケーションを完成させ、ブレグの魂を腕時計として現代にのみがえらせた。

1989年に自身のブランド、ダニエル・ロートを設

立後、初のトゥールビヨン腕時計で注目され、ダブル・オーバーと呼ばれるアイコン的なケースに独創的な複雑機構を搭載したモデルなどで成功を取っていく。しかし、ビジネス上の軋轢から、90年代末に自身のブランドを離れることを余儀なくされ苦難の時代を経験。そんな中、家族の支えの下、妻と息子と自身の名前を冠したジャン・ダニエル・ニコラを立ち上げ、自分が納得できるモデルだけを丁寧な手作業によって、少量ずつ世に送り出している。その成果というべき「2ミニッツ・トゥールビヨン」は、殊腕時計師がたどり着いた、極やかぬ境地さえも感じさせる。

(上)2分間で1回転するトゥールビヨンを、個性的で良品あるパイオニア・シェーブのケースに搭載。「ツイントレブル 2ミニッツ・トゥールビヨン」手巻き、ケースサイズ42×32mm、PTケース×アライグマーストリップ、26,400,000円。